

秀吉の天下統一を支えた武将達に学ぶリーダーの本質と人間力

# 秀吉と七人の部下

## 第一卷

---

実務に関するスキルを学ぶ

## はじめに

よく、「天下取りの三英傑」といういい方をする。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人である。この3人によって、戦国争乱の時代に幕が引かれ、260年余にわたって、戦いのない平和な時代が到来したわけで、武将の人気ランキングでも、この3人は常に上位を占めている。

本書は、信長の死後、信長がやりかけた天下統一を事実上成しとげた豊臣秀吉と、その秀吉を支えた七人の部下たちにスポットをあてている。その七人とは、秀吉の弟である豊臣秀長、前田利家、石田三成、福島正則、加藤清正、藤堂高虎、黒田孝高である。もちろん、秀吉にはこの他にも有能な部下がたくさんいたが、秀吉の事業を支えたという点では、この七人に代表させてよいのではないかと考えている。秀吉と七人の部下たちの生きざまを通して、リーダーの本質と人間力を浮き彫りにしたい。

私は、歴史を学ぶことの重要性の一つとして、先人たちの経験に学ぶべきだと思っている。ただその場合、成功例だけではなく、失敗例も学ばなければ、本当の歴史を学んだことにならない。しかも、単なる生きざまではなく、現在を生きる私たちのビジネスにも活かせる経験を掘りおこすことが必要である。

そこで本テキストでは、「実務に関するスキル」、「対人関係に関するスキル」、「問題解決に関するスキル」の3つを大きく取り上げた。秀吉と七人の部下たちのさまざまな経験を通して、現代のビジネスにも活かせるスキルを明らかにしている。プレゼンテーション力、プランニング力、コミュニケーション力など、秀吉と七人の部下たちが具体的にどのように対処していたのかを例示しながら解説を進めていく。

ただ、その場合、たしかに古文書・古記録だけでなく、エピソードの類に依拠するケースもある。その場合でも、そのエピソードの信憑性について吟味を加えて用いており、荒唐無稽な話は極力排除しているつもりである。

時代は変わっても、人間が考えることにはそう大きな違いはないと思われる。今から400年ほど前の武将たちが考えたこと、やろうとしたことは、今日を生きる私たちにもヒントになることが少なくないのではないだろうか。秀吉と七人の部下たちが私たちに教えてくれるスキルを、ぜひとも学びとってほしい。

小和田哲男



## 小和田哲男

(おわだ てつお)

文学博士、歴史学者。特に日本の戦国時代に関する研究で知られる。静岡大学名誉教授。

執筆、講演活動のほかに、NHK『歴史秘話ヒストリア』やNHK Eテレ『さかのぼり日本史』などで解説を務める。戦国史と現在のビジネスマンの生き方を比較するような著書や講演も多く行っている。NHK大河ドラマの時代考証も行っており、1996年放映の『秀吉』、2006年放映の『功名が辻』、2009年放映の『天地人』、2011年放映の『江～姫たちの戦国～』の時代考証を監修している。

# 目次

第一巻では、登場する人物の人となり、実務に関するスキル、職務を遂行するために必要とされ、役立つスキルを学んでいきます。

はじめに	2
目次	4
主な登場人物相関図	8
「秀吉と部下」の歴史年表	10
本コースに関連する旧国名	14

## 第一章

秀吉と部下達の人となり	17
一． 豊臣秀長 秀吉の家臣第一号にして片腕	18
二． 最後まで秀吉の恩を感じながら 家康についた福島正則	20
三． 領国の経営安定をはかり、 最後まで豊臣に仕えた加藤清正	22
四． 主人を次々と替え戦国の世を 渡っていった藤堂高虎	24
五． 天下を誰がとるのかを正しく判断し 常に先んじて策をとる黒田孝高	26

六． 先に出世したが、秀吉の力を認め それを補佐した前田利家 ……………	28
七． 若いうちから秀吉の政策実行の 担い手だった石田三成 ……………	30
番外一． 秀吉が出世するときに重要な役割を 果たした竹中重治（半兵衛） ……………	32
番外二． 町人でありながら秀吉の 側近として力を得た千利休 ……………	34
《著者インタビュー・コラム》 “歴女”で広がる歴史探究の可能性!？ ……………	36

## 第二章

秀吉と部下達から実務に関するスキルを学ぶ ……………	39
一． 《行動力・実行力》 頭で考えたことを行動に移すことのできた石田三成の力 ……	40
二． 《自己管理能力》 黒田孝高のセルフケア、セルフコントロール。自律能力 ……	42
三． 《人材育成力》 部下や後輩を育てる加藤清正の力 ……………	44
四． 《モチベーション管理能力》 自分や部下のモチベーションを管理する藤堂高虎の力 ……	46

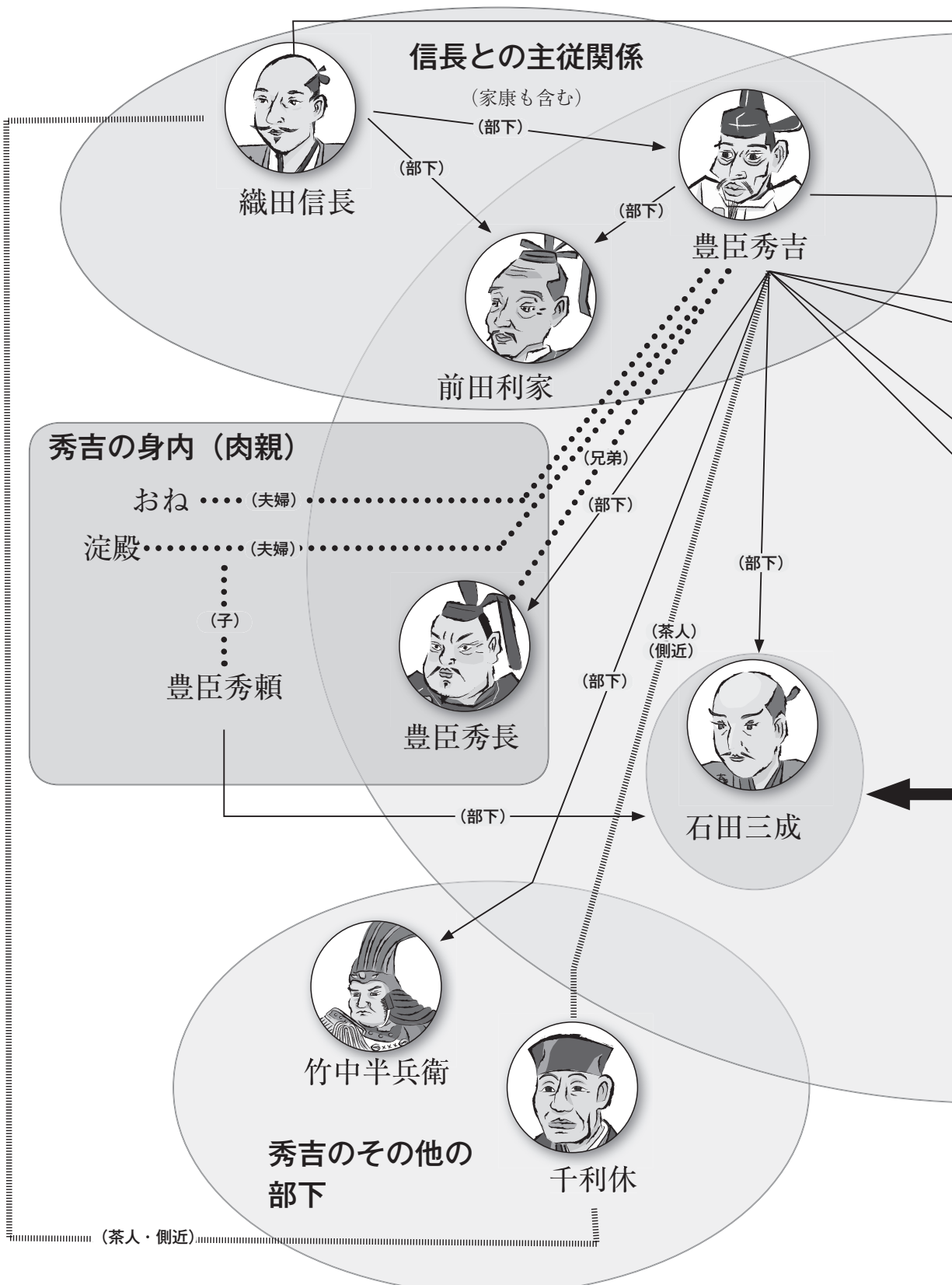
---

---

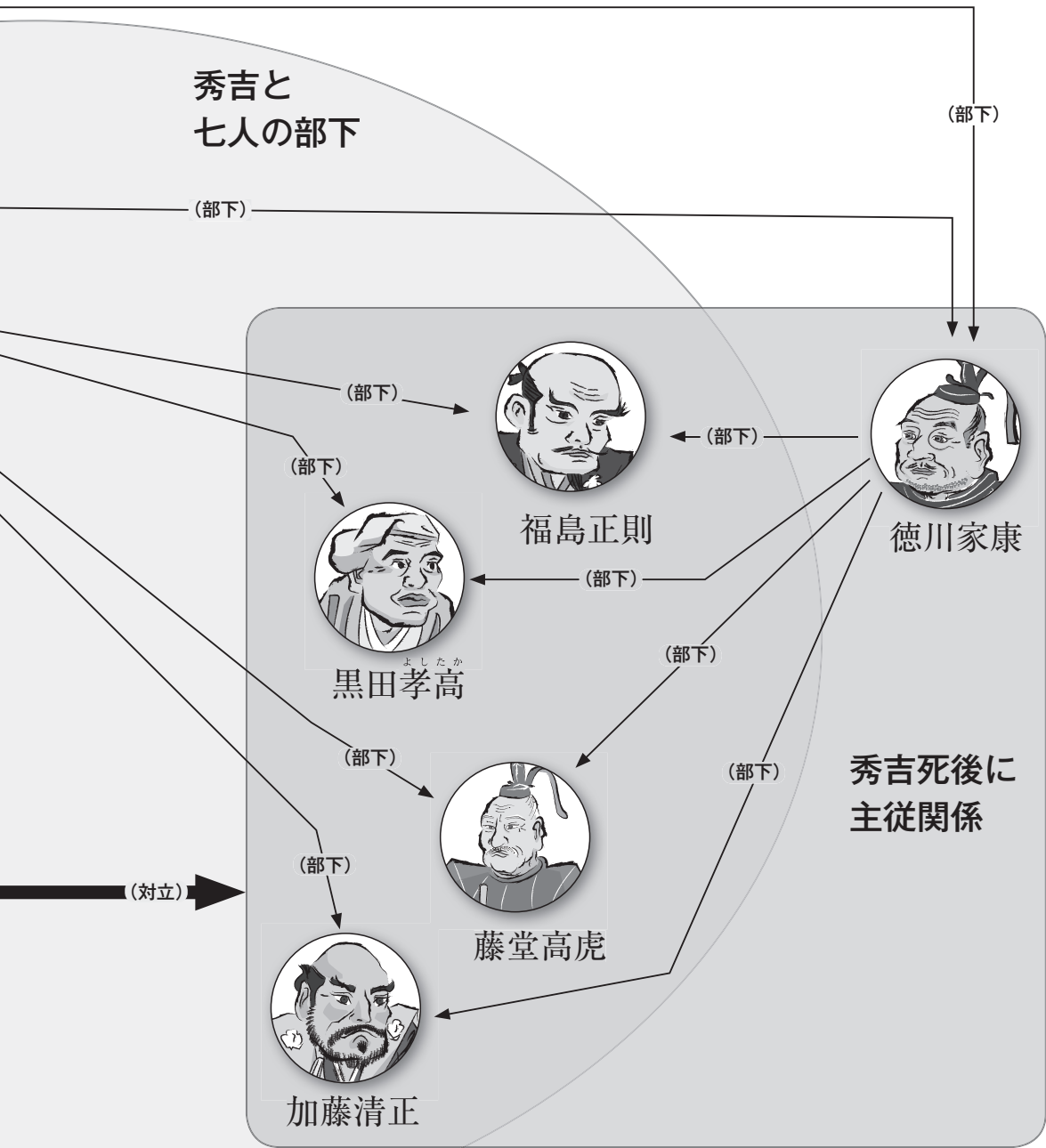
五. 《プレゼンテーション力》	
黒田孝高の説明する力、魅力的に伝える力 ……………	<b>48</b>
六. 《判断・決断力》	
福島正則の正しい判断を行う力、すぐに決められる力 ……………	<b>50</b>
七. 《危険察知力》	
危険に気づくことができ、 リスクマネジメントができる秀長の力 ……………	<b>52</b>
八. 《洞察力》	
物事のありようを直観的に見抜く石田三成の能力 ……………	<b>54</b>
九. 《プランニング力》	
目標達成するための計画を立てられる秀吉の力 ……………	<b>56</b>
十. 《状況対応力》	
状況の変化に合わせて柔軟に対応できる黒田孝高の力 ……	<b>58</b>
十一. 《商才》	
好機を逃さず利益につなげる黒田孝高の力 ……………	<b>60</b>
十二. 《文章力》	
秀吉の良い文章を書く力 ……………	<b>62</b>

《著者インタビュー・コラム》

大河ドラマ「時代考証」の裏側 .....	64
秀吉の各時代の組織図 .....	68
このテキストに登場する織田家、豊臣家、徳川家などの血縁関係図（抜粋）	72
全国で繰り広げられた東軍 vs 西軍の戦い .....	74
関ヶ原の戦い布陣図 .....	76







## 主な登場人物 相関図

秀吉の各時代の部下の組織図は P68 ~ 71 に掲載しています。

## 《「秀吉と部下」の歴史年表》

大永2年（1522）千利休、堺の新興商人千与兵衛の子として誕生。

天文6年（1537）秀吉、尾張国愛知郡中々村に誕生。

天文7年（1538）前田利家、尾張国海東郡荒子村の荒子城主前田利春の四男として誕生。

天文9年（1540）豊臣秀長、誕生（推定）。

天文10年（1541）武田信玄、父の信虎を追放。

天文12年（1543）ポルトガル人の乗った中国船、種子島に漂着、鉄砲伝来。

秀吉の父・弥右衛門の死去。

天文13年（1544）竹中半兵衛重治、誕生（推定）。

天文15年（1546）黒田孝高、播磨姫路城代黒田職隆の嫡男として姫路城で誕生。

天文18年（1549）7月 フランシスコ・ザビエル鹿児島にキリスト教を伝える。

天文17年（1548）12月 上杉謙信（長尾景虎）、家督を継ぐ。

天文22年（1553）武田信玄 vs 上杉謙信、川中島の合戦（他にも '55、'57、'61、'64 にも）。

天文23年（1554）秀吉、織田信長に仕える。

弘治元年（1555）信長、清洲城に進出。

弘治2年（1556）斎藤道三（利政）、子の義龍に敗死。

藤堂高虎誕生。

永禄2年（1559）信長入京。

永禄3年（1560）石田三成誕生。

桶狭間の戦い、今川義元敗死。

永禄4年（1561）5月3日 秀吉、浅野又右衛門長勝養女おねと結婚。

福島正則、誕生。

斎藤義龍が死去、14歳の子龍興が継ぐ。

5月14日 森辺の戦い。織田信長 vs 斎藤龍興。

9月 武田信玄 vs 上杉謙信、川中島の合戦（他にも '53、'55、'57、'64 にも）

永禄5年（1562）加藤清正誕生。

永禄6年（1563）信長、清洲城から、美濃に近い小牧山に移る。

永禄7年（1564）2月 竹中重治、稲葉山城乗っ取り事件。

永禄9年（1566）秀吉、墨俣一夜城を築く。

永禄10年（1567）織田信長、斎藤氏を滅ぼし稲葉山城に入城して岐阜城と改称。

永禄11年（1568）9月 織田信長が足利義昭を奉じて上洛。

10月 足利義昭、将軍となる。

永禄12年（1569）前田利家、兄の利久に代わって利家が前田家の家督をつぐ。

元亀元年（1570）6月28日 姉川の戦い。織田信長 vs 浅井長政。藤堂高虎初陣。

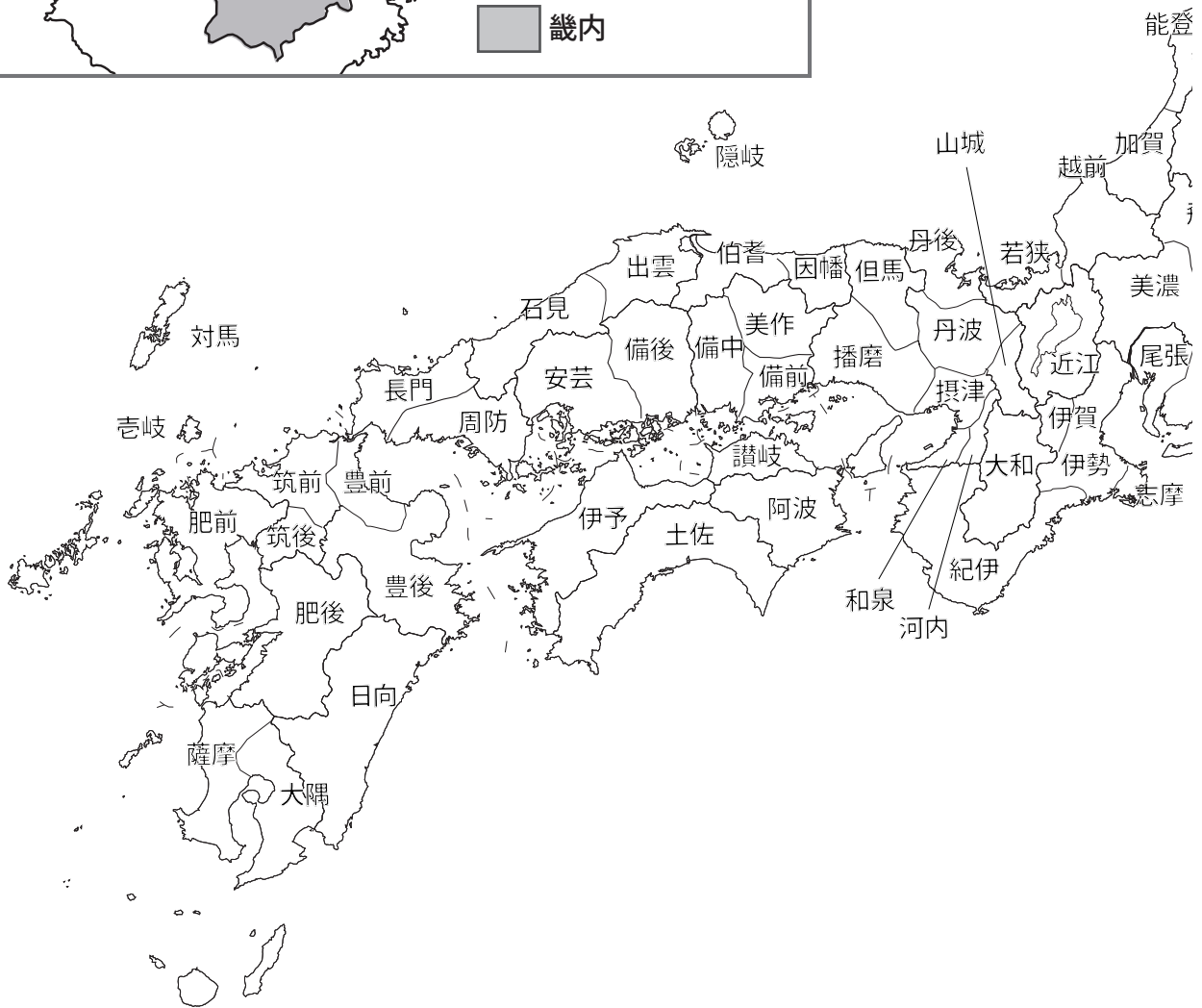
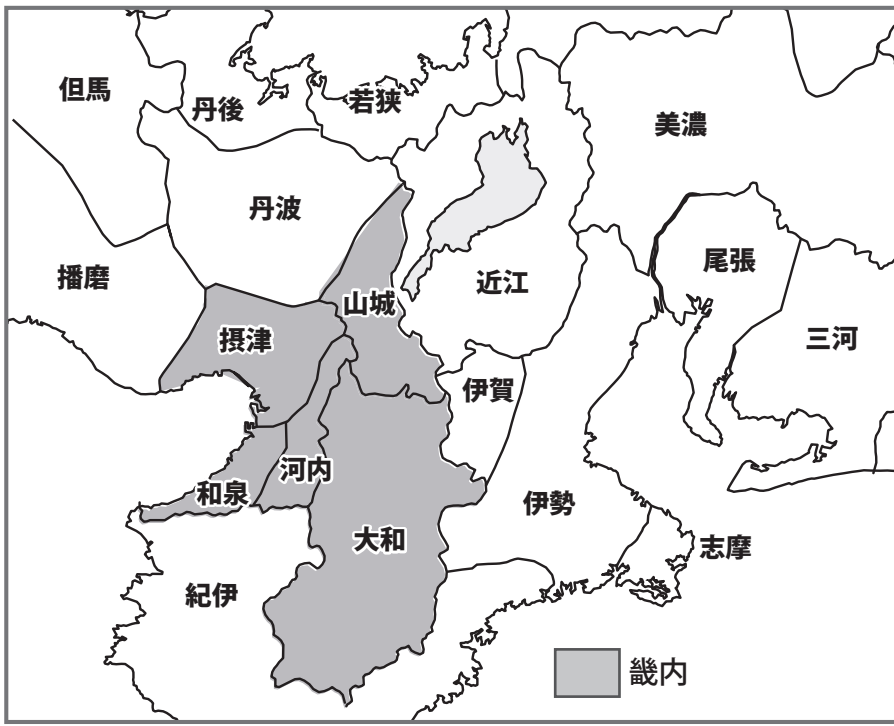
元亀2年（1571）9月 信長、延暦寺焼き打ち。

- 元龜 3 年 (1572) 12 月 三方ヶ原の戦い。武田信玄 vs 徳川家康、家康敗退。  
天正元年 (1573) 4 月 武田信玄死去。  
8 月 小谷城落城、浅井、朝倉氏滅亡。  
この頃に木下藤吉郎から羽柴秀吉に改名する。
- 天正 2 年 (1574) 3 月 (羽柴) 秀吉、長浜城を築城、入城。  
9 月 信長、長島の一向一揆を平定。
- 天正 3 年 (1575) 5 月 長篠・設楽原の合戦、信長、家康連合軍 vs 武田勝頼。  
連合軍は鉄砲を大量投入。武田軍敗退。  
11 月 28 日 信長が家督を長男信忠に譲る。
- 天正 4 年 (1576) 2 月 織田信長は安土城を築城、入城。
- 天正 5 年 (1577) 10 月 23 日 羽柴秀吉「中国方面軍司令官」として播磨に出陣。  
11 月 黒田孝高が福原城攻めに向かう。
- 天正 6 年 (1578) 3 月 上杉謙信、死去。  
6 月から翌々年正月まで三木城を包囲、三木城の戦い。  
11 月 5 日 黒田家臣たちの起請文を出す。
- 天正 7 年 (1579) 3 月 上杉景勝、上杉家の家督を継ぐ。  
6 月 播磨三木城攻め、陣中にて竹中重治死去 (36 歳)。  
10 月 16 日、有岡城が織田軍によって攻められ、落城。
- 天正 8 年 (1580) 羽柴秀吉、長浜城から姫路城に入城。
- 天正 9 年 (1581) 信長、高野山を討つ。  
前田利家、能登一国を与えられる。  
因幡鳥取城攻め、福島正則、加藤清正参戦。
- 天正 10 年 (1582) 1 月 大友・大村・有馬の 3 氏、少年使節をローマ法王に派遣。  
3 月 信長、武田勝頼を滅ぼす。  
6 月 2 日 本能寺の変 織田信長 (49 歳)、信忠 (25 歳) 死去。  
6 月 13 日 秀吉、山崎の戦いで明智光秀を倒す。  
6 月 27 日 清洲会議 (織田氏の後継者を決定する会議)。  
7 月 太閤検地始まる。
- 天正 11 年 (1583) 4 月 21 日 賤ヶ岳しずがたけの戦い、北庄城にて、柴田勝家死去。  
羽柴秀吉、大坂城を築城。  
利家、北加賀領主・能登一国領主に、七尾城から金沢城に入城。
- 天正 12 年 (1584) 3 月 小牧・長久手の戦い。秀吉 vs 家康。  
三成 15 歳のころ、秀吉の小姓に取りたてられる。
- 天正 13 年 (1585) 3 月 秀吉の紀州攻め。

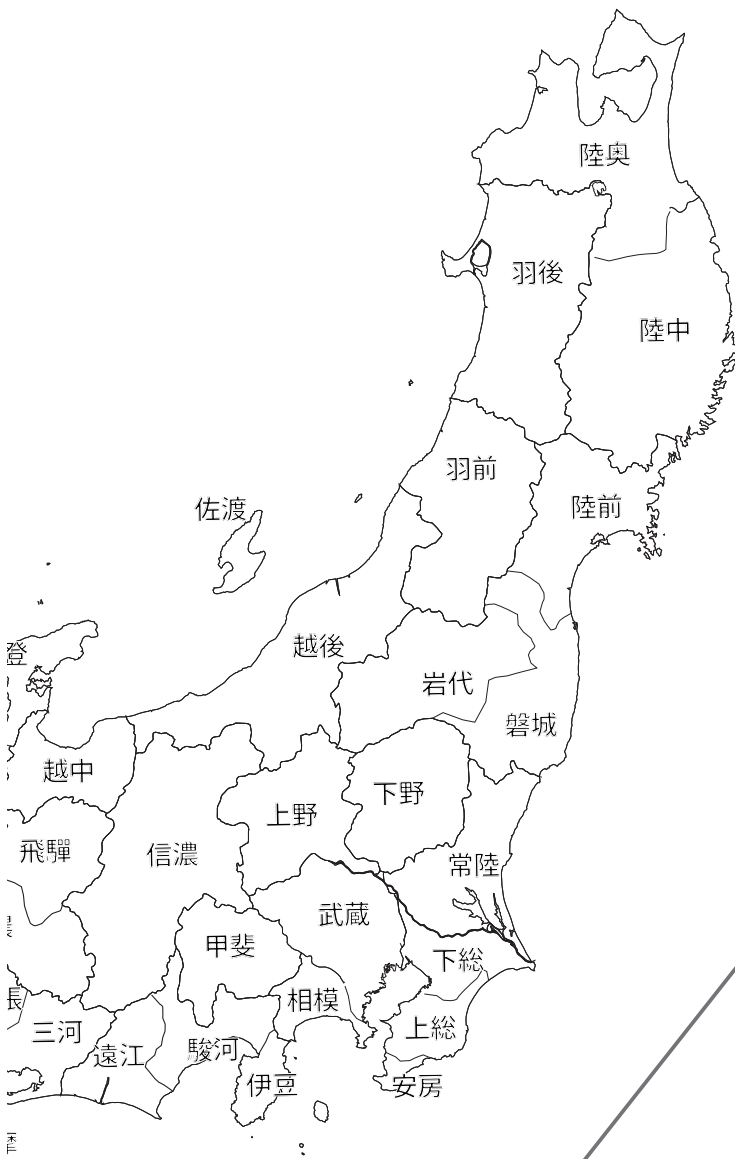
- 天正 13 年 (1585) 6 月 四国攻め、羽柴秀吉、長宗我部元親を討ち四国平定。  
7 月 11 日 秀吉、関白となり豊臣姓を賜る。
- 天正 14 年 (1586) 秀吉、大仏殿造営。  
秀吉、聚落第造営。  
秀吉、太政大臣となる。  
秀吉、松井友閑を罷免し、三成と小西隆佐の二人を堺政所に指名。  
羽柴秀吉は太政大臣 (従一位) になる。
- 天正 15 年 (1587) 九州攻め、秀吉、島津義弘を討って九州を平定。  
加藤清正、肥後半国 25 万石を与えられ、熊本城主に。  
博多の復興始まる。  
6 月 キリスト教禁止。
- 天正 16 年 (1588) 7 月 刀狩り発令。  
天正大判・小判鑄造。
- 天正 17 年 (1589) 5 月 27 日 秀吉、長男の鶴松誕生。
- 天正 18 年 (1590) 小田原攻め。  
秀吉、北条氏政・氏直討伐で関東を平定。  
家康、江戸に移される。
- 天正 19 年 (1591) 正月 22 日 秀長死去。  
2 月 13 日 千利休、蟄居、後切腹。  
8 月 5 日 鶴松、3 歳で没。  
12 月 豊臣秀次 (秀吉の甥) が関白職を継ぐ。
- 文禄元年 (1592) 3 月 文禄の役、豊臣秀吉朝鮮出兵。  
4 月 小西行長、釜山鎮城攻略。  
5 月 小西行長、漢城 (京城) に入る。
- 文禄 2 年 (1593) 8 月 3 日 秀吉、二男の秀頼誕生。
- 文禄 3 年 (1594) 秀保 (秀長の養子)、大和の十津川で変死。
- 文禄 4 年 (1595) 7 月 秀次事件。  
高虎、伊予宇和島 7 万石の大名に。
- 慶長 3 年 (1598) 8 月 18 日 秀吉死去。62 歳。
- 慶長 4 年 (1599) 正月 3 日、家康、伏見の島津義弘・忠恒 (家久) 父子の屋敷を訪問。  
正月 10 日 秀頼、伏見城より大坂城入り。
- 慶長 4 年 (1599) 3 月 利家、大坂城にて 63 歳で死去。
- 慶長 5 年 (1600) 7 月 7 日 家康、会津攻めの軍令を下す。  
11 日 三成、大谷吉継と謀議。  
17 日 毛利輝元、大坂城に入り、西軍の大將となる。  
25 日 小山評定。  
29 日 三成、佐和山より伏見にいたり、伏見に猛攻撃を加える。  
8 月 1 日 三成、伏見城を攻め落とす。

- 8月14日 正則ら豊臣恩顧の大名たちが東軍先鋒として、正則の居城清洲城に入る。  
三成、大垣城に入る
- 8月20日 先鋒軍だけの軍議を開き、西軍織田秀信が籠る岐阜城攻める
- 8月22日 東軍先鋒が木曾川を渡り、美濃に侵攻
- 23日 岐阜城総攻撃はじまる
- 9月1日 家康 江戸を出発
- 9月14日 家康 岐阜城を出発  
小早川秀秋 松尾山へ 三成 関ヶ原へ
- 9月15日 関ヶ原の合戦
- 10月1日 三成、京の六条河原で斬首

- 慶長8年(1603) 徳川家康は征夷大將軍になる。
- 慶長9年(1604) 黒田孝高死去。享年59。
- 慶長10年(1605) 秀忠、征夷大將軍となる
- 慶長16年(1611) 家康が秀頼と二条城で会見。  
清正、家康が秀頼の会見後、帰国途中の船内で発病、6月24日に熊本で死去。50歳。
- 慶長19年(1614) 4月16日 方広寺の鐘鑄造。  
10月1日 家康、諸大名に出陣を命ず。  
11月 大坂冬の陣。
- 元和元年(1615) 4月6日 家康、諸大名に出陣を命ず。  
5月8日 淀殿・秀頼親子自刃す。豊臣氏の滅亡。
- 元和2年(1616) 4月17日 家康、駿府城において死去。75歳。
- 元和5年(1619) 福島正則、安芸、備後より改易。
- 寛永元年(1624) 正則、高山村(長野県)で死去。64歳。
- 寛永7年(1630) 10月5日 高虎、死去。75歳。



本コースに  
関連する  
旧国名



現在の都道府県名